

## 新廃棄物処理施設のごみ処理方式と候補地

2022年3月14日、根室市議会文教厚生常任委員会は委員協議会を開催し、「新廃棄物処理施設」について市担当課より説明をうけました。ごみ処理方式はストーカ式(全連続式)にすること、また建設予定地は現在の塵芥焼却場の隣接地を第1候補として作業を進めること等が報告されました。

2月24日、根室市は現在建設計画を進めている新しいごみ焼却施設における「ごみ処理方式と建設候補予定地を「根室市廃棄物減量等推進審議会」に諮問。3月1日に同審議会は検討の結果、「市の原案通りとする」旨の答申を行いました。

### ごみ処理方式は、ストーカ式(24時間運転)を採用

市の案では様々なごみ処理方式と比較検討の上、現在の塵芥焼却場と同じ処理方式である「ストーカ式・全連続式(1日16時間運転)と同じく「ストーカ式・全連続式(1日24時間運転)」として選別した生ごみをメタン発酵させる仕組みと焼却処理を組み合わせたコンバインド方式の3種類について、「安全性・安定性・経済性」「環境性」の視点から総合的な評価を実施しました。施設規模は1日47t処理します。

結果として建設実績や費用対効果など、最も評価点数の高かった「ストーカ式(全連続式)」が市の原案とされました。

なおコンバインド方式ですが、最終処分場への負荷が最も少ない一方で、建設実績の少なさや、メタンガス発電による売電収益を含めても費用対効果が悪いこと、また焼却炉が1炉しかないため、修理等で長期間ストップした場合、ごみ処理が滞ってしまうという課題もあるようです。さらにコンバインド方式は世界的に大問題となっているCO2排出量が、ストーカ式(全連続式)よりも多くなる、という結果でした。

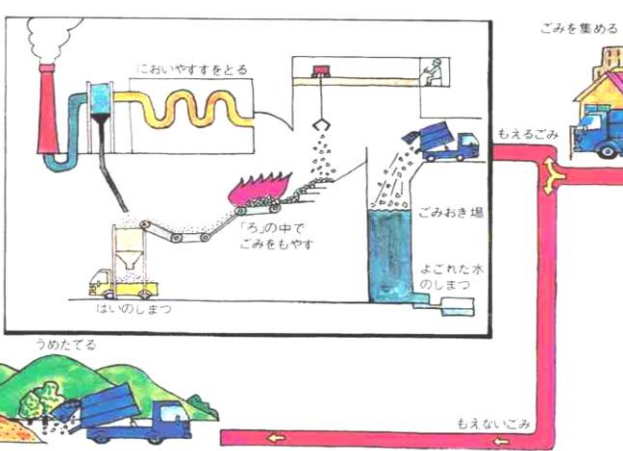
建設候補地は、現在の塵芥焼却場の隣接地を第一位優先に

建設候補予定地は市内6か所を選定し、法的規制や自然環境保全などの観点から総合的に評価を実施。その結果、候補地は現在の塵芥焼却場の隣接地と、埋立処分場の近隣(2か所)を第1候補、第3候補まで優先順位をつけて原案としました。

審議会の答申では市の原案を妥当としつつも、海洋への土砂の流出防止や排水を場外へ放流しないことなど、環境への配慮を求めています。市は今後、地権者や地域住民の方々への説明・合意を図っていくとのことです。

今後の予定は様々な調査や測量、基本設計などを経た後、実施設計と施工を一括で発注する方法を考えているそうです。

その後、2025年度〜27年度にかけて建設工事が行われる予定となっています。



## 今年度(仮称)花咲港ふるさと館が移転・新築

根室市は老朽化が進む花咲港会館と厚床会館について、「(仮称)花咲港・厚床ふるさと館整備事業」として2020年度に基本構想を策定。今年度、(仮称)花咲港ふるさと館が花咲港小や歴史と自然の資料館の隣接地に、移設・新築されます。なお「(仮称)厚床ふるさと館」は設計等を経て2025年度に着工予定です。



解体される予定の花咲港会館

と「(仮称)花咲港ふるさと館」の指定避難所としての最大収容人数は146名と推計されるそうです。コロナ禍のもと感染防止対策を進めると実際の収容人数は1/8程度になると見込まれます。その基準で単純計算すると、新たな会館の収容人数は約18名程度にまで減ってしまいます。

こうしたことから行政側は現在、住民に対し避難所への避難だけでなく、分散避難の重要性を呼び掛けているところです。

また市内の各指定避難所でも、従前の最大収容人数とは別に、感染対策へ対応した場合の収容人数の見込みを具体的に各施設ごとに算出していくことも重要です。根室市は現在作業を進めている「津波防災地域づくり推進計画」の策定とあわせて作業していきたい、としています。

(仮称)花咲港ふるさと館は地域住民との話し合いのもと、地域の防災拠点としても整備され、花咲港小学校と共に指定避難所となる予定とのことでした。

災害時の設備として従来からある可搬型発電機その他、災害時に協定を結んだ事業者が大型発電機を設置します。また太陽光パネルや、ポータブルバッテリーも整備します。これら発電機で災害時主要部屋の暖房・照明・浄化槽に電力が供給されるように設計したそうです。したがって災害時でも会館のトイレ(合併浄化槽)が使えるようになります。

また分散避難の場合では、行政や地域における支援のあり方も従前の想定とは違った形になるのかも知れません。様々な観点から検討していく必要があると思います。